

聞こえにくいものが聞こえる仕組み

補聴器ってどんなもの？

補聴器は、難聴の聞こえを補う目的で使用します。音を増幅し、必要に応じて音の処理を行ない、身体に装着して使用し、電池を電源として動作する装置です。補聴器は「聞こえを補う機械」であって「難聴を治す治療器」ではありません。

補聴器選びは、型を決めることから始まります。一般的に、耳あな型、耳かけ型、ポケット型の3種類に分けられます。

耳の中に入れる耳あな型

人の耳から型を採取するため、オーダーメイドが基本です。フィット感や聞こえが自然で、目立ちにくいのが特徴です。耳にスポッと入れる耳あな型とマイクが分離したマイク分離型があります。



耳の後ろにかける耳かけ型

いろいろな難聴に合わせることができます。従来タイプとレシーバー分離型（R I C）のタイプがあります。



操作が簡単なポケット型

補聴器をポケットに入れ、コードを通してイヤホンで聞きます。操作がより簡単で、取り扱いが楽です。

